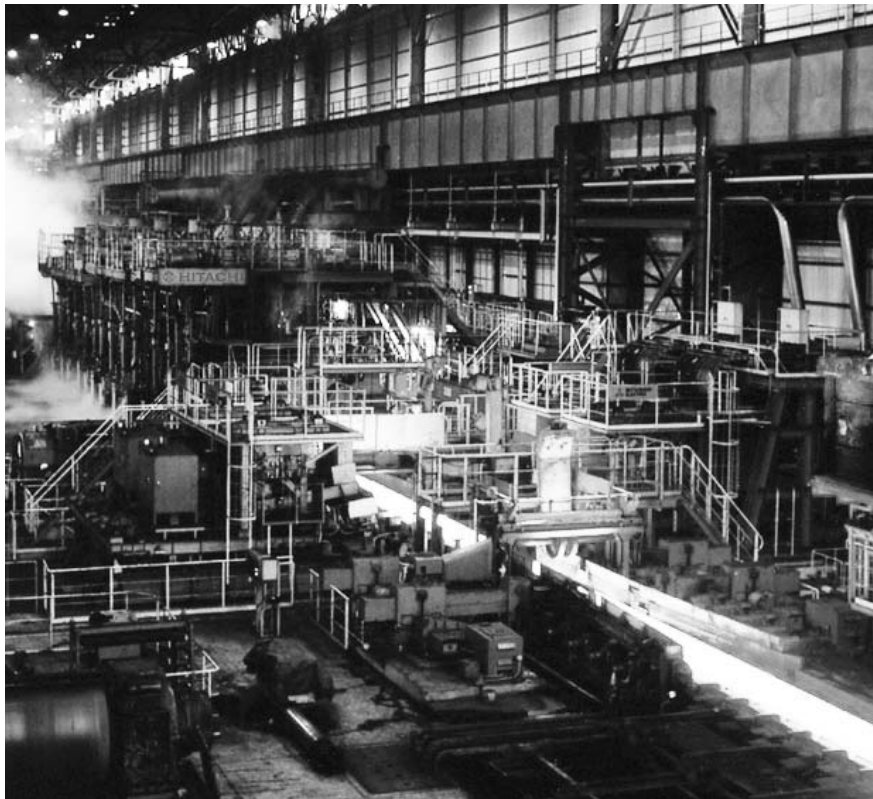


主要製造業に 堅調な動き

自動車・半導体など

新日鉄八幡製鉄所は輸出比率が5割を超えている



一方、九州の製造業を長年支え、育んできた鉄鋼や造船も生産は堅調という。鉄鋼については粗鋼生産量が11年1月145万トン、2月133万トン、3月146万トン、4月138万トンと大きな変化は見られない。新日本製鉄八幡製鉄所（北九州市戸畑区）の10年度生産実績は、粗鋼388万トン（前年度は366万トン）、鋼材440万トン（同381万トン）だった。鋼材生産量が400万トンを上回るのは、07年度以来3年ぶり。海外向けにレールや電磁鋼板、自動車用薄板の出荷が増えたのが要因だ。輸出比率は09年度の52%から55%へ上昇した。日本全体でも鉄鋼の生産を支えているのは韓国や中国といった外需。日本鉄鋼連盟（東京都中央区）がまとめた10年度の鉄鋼輸出実績は、前年度の比11・9%増の4363万トン、前年度比10・7%減の150隻だった。三菱重工業下関造船所（山口県下関市）や旭洋造船（同）は現在の手持ち工事は2年分あり、現場には繁忙感がある。鋼材価格の上昇という要

造船は受注競争激化

中・韓に対抗、生産性向上



旭洋造船で建造中のRORO船（運送用車両をそのまま積載できる貨物船）

因もある。そこで効率的な生産体制を整備しようとする動きが出てきた。三菱重工業下関造船所は船体ブロックを大型化し、効率的な生産体制を構築するため、11年7月に吊り上げ荷重300トン、長さ150メートルのクレーンを導入した。これらを投資で15%の生産性向上を目指す。足元では九州の製造業はあわやな状態だ。だが民主党政権の震災対応の遅さなどにあきめ頭の経営者も多い。資源がない日本が今後、どうやって外貨を稼ぐのか。戦略的産業振興策を早急に打ち出す責任が政府にはある。

九州の底力

今後は自動車がけん引役に



九州の生産は回復色が鮮明になってきた。九州経済産業局が7月7日に発表した5月の鉱工業動向によると、生産指数は前月比2.7%上昇し、104.2と2カ月連続上昇した。東日本大震災前の2月の水準にあと一歩で肩を並べるところまで回復した。

車両生産台数 増加へ

震災による休業を ばん回



九州経済調査協会（福岡市中央区）が4月中旬から5月中旬にかけて、九州の自動車関連産業を対象に行った調査で、78・1%が震災の影響により生産量が減少もしくは休止したと回答した。トヨタ自動車は当初、正常な生産に戻るのには年末ごろと表明していたが、部品サプライチェーンの復旧はトヨタ自動車九州は8月以降増産する

自動車メーカーの輸送機械工業、ビールなどの食料品・たばこ工業、自動車用タイヤが増えたその他工業など8業種が上昇、化学工業など9業種で低下した。中でもけん引役は自動車。6月以降、各社はさらに生産台数を増やしており、景気の回復のリード役となることが期待される。経済産業省の2008年工業統計によると、九州の製造品出荷額は23兆1544億円。業種別では食料品関連製造業4兆4147億円、輸送用機械器具製造業3兆5608億円、食料品製造業2兆7641億円、電子部品・デバイス・電子回路製造業2兆4598億円、鉄鋼業2兆759億円、飲料・たばこ・飼料製造業1兆6506億円、化学工業1兆6290億円、7業種が出荷額1兆円を超えている。特に近年急拡大してきたのが自動車を含む輸送用機械器具製造業だ。地場経済へ与える影響も大きくなっている。

「雇用調整助成金を申請して、しのぐしかない」。3月11日の東日本大震災発生で全国の自動車組が立て続けにラインが停止。地場の部品メーカーから悲鳴が上がった。九州経済産業局が毎月公表している九州の自動車生産台数は3月が前年同月比50・4%減の5万2617台、4月同57・1%減の3万8253台、5月同9・9%減の7万4527台、4・5両月は前年水準を大きく割り込んだ。



日産自動車九州も下期に増産する計画。九州に立地する自動車組が立て続けにラインが止まり、3工場などから幹部が出席するところだ。150人の定員に対し約230人が参加した。同会議で各工場は震災の影響を踏まえて、地場調達の強化を一層進めると強調した。日産自動車九州工場（福岡県田代町）は、地域でのサプライチェーンを拡大した。ライオンを拡大した。6月に福岡市博多区の福岡県中小企業振興センターで開いた「自動車関連企業等震災対応会」は、地場完結型の部品調達をさらに進めたい。（馬場良仁専務）と語った。地場部品メーカーと共同受注組織を展開するアisin九州（熊本市）の小田浩一郎営業課課長は、「地場企業はアドバンザイなどをうまく活用してほしい」と助言。ただし、「最終的には自社の努力次第」とも付け加えた。今後の生産見通しについて、各社は震災による休業をばん回するため増産に転ずる見通しだ。さらに今年は10月に日産九州工場が分社化される。コストを低減するための分社化とも言われており、地場企業は短・中期的に自動車工場との関係を認識し、自社の経営方針を打ち出していく必要がある。

半導体も前年比増

月産7億個台で推移

加工組み立て型産業では自動車に次いで規模の大きな半導体が堅調だ。九州経済産業局がまとめた

3月は約7億5000億個に増加。4月、5月とも7億個台で推移している。5月の生産実績では全生産量の6割を占めるロジックがシステムLSIなどが好調で前年同月比0・7%増えた。さらに相補型金属酸化膜半導体（CMOS）、電荷結合素子（CCD）といった映像素子を含むその他のMOS型が同27・2%の大幅増に。パワール半導体などの混成集積回路も同5・6%増と堅調だ。

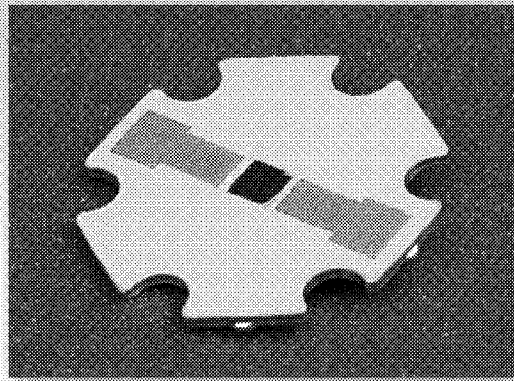
LEDを輝かせ、未来を照らす。

新開発の特殊セラミックスを使用し、高放熱性と高反射率の両立を実現した『超高輝度LED用放熱基板』

当社は、放熱性と光反射率に優れた『超高輝度LED用放熱基板』を開発いたしました。独自の技術で弾性変形可能な特殊セラミックスを金属基板と複合化した高温高湿などの苛酷な環境に耐える基板で、特に超高輝度LEDおよび紫外光LEDの実装に最適です。タングステンフィラメントに始まり、当社が長年培ってきた技術はLED分野へと発展し、さらなる普及に向けて、未来を照らし続けます。

(本商品の特徴)

- 高熱伝導、高耐熱: AIN (窒化アルミニウム) 製基板に対し、放熱性を15%以上改善しました。
- 耐紫外線・耐環境性: 有機材料不使用のため、長期間の高湿・高湿や紫外線からの劣化を受けません。
- 高反射率: 紫外域でも反射率70%以上を実現しました。
- 耐熱衝撃性: セラミックス絶縁層は銅合金の熱膨張に追従して弾性変形するため、熱応力を緩和します。
- 製造工程が簡単で安価: シンプルな構造ですので、AIN製基板よりも大幅な低コスト化を実現しました。



超高輝度LED用放熱基板

【本商品に関するお問い合わせ先】
日本タングステン(株) 基山工場
基礎技術センター 永野、祝迫
TEL 0942-81-7770
FAX 0942-81-7713

次世代マテリアルのパイオニア。未来への跳躍。

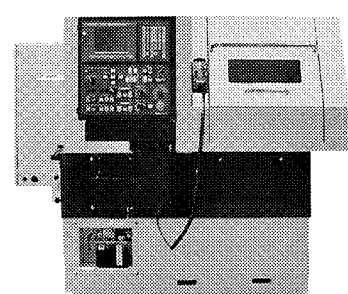
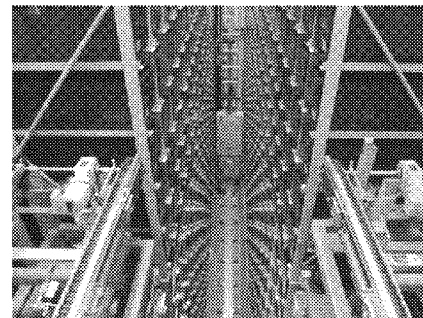
日本タングステン株式会社

〒812-8538 福岡市博多区美野島一丁目2番8号 TEL 092-415-5500 FAX 092-415-5511 <http://www.nittan.co.jp/>
支店/東京・名古屋・大阪・九州 サテライト/東海・北陸・福山 工場/基山・宇美・飯塚

ULTRA-PRECISION & MECHATROMATION 超精密とメカトロメーションを追求する

Seibu

給油室自動洗浄システム
搬送機械
MATERIAL HANDLING



高精度自由形状研削加工機 / SFG-28
工作機械
PRECISION LATHE

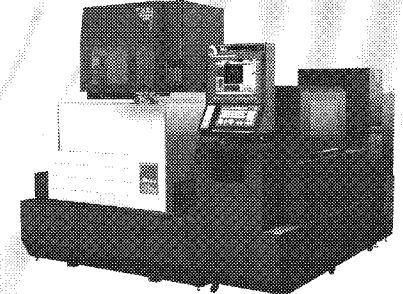
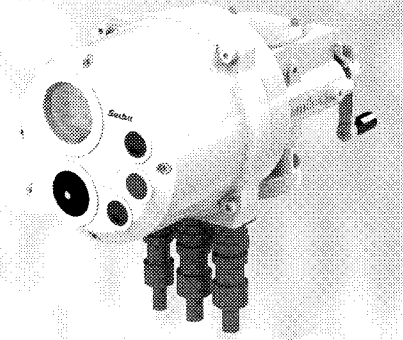


西部電機株式会社

代表取締役社長

木村 駿

インテリジェントビルアクチュエータ / Semflex® Aシリーズ
産業機械
ELECTRIC ACTUATOR



超精密ワイヤ放電加工機 / SuperMM50A
放電機械
ELECTRIC DISCHARGE MACHINE

本社・工場: 〒811-3193 福岡県古賀市東三丁目3番1号
TEL (092)941-1500 FAX (092)941-1511
東京支店: TEL (03)5628-0011 大阪支店: TEL (06)4796-6711
名古屋営業所: TEL (052)800-5051 札幌出張所: TEL (011)221-0521
広島営業所: TEL (082)502-1651
ホームページアドレス <http://www.seibudenki.co.jp>